

Studyaid D.B.

機能紹介



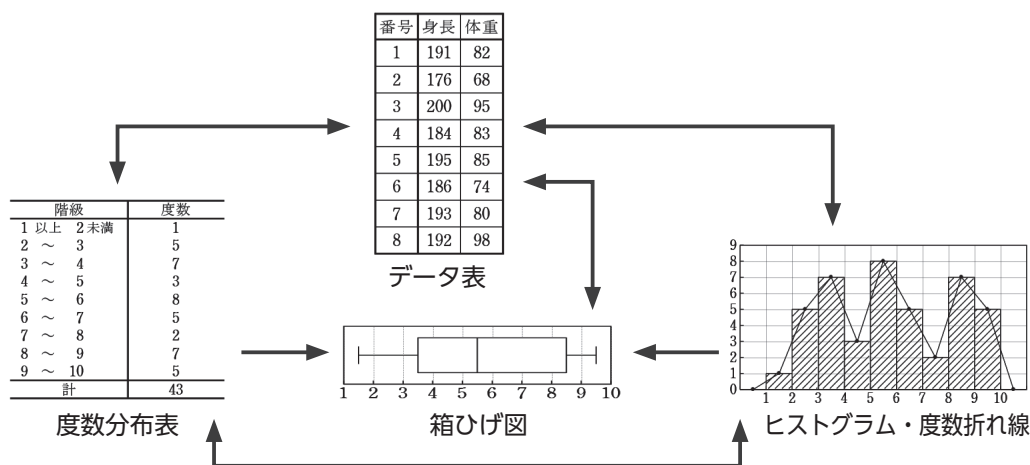
次期学習指導要領の実施に向けて、「統計機能」をおさらいしましょう。

統計機能の全体像

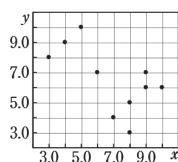
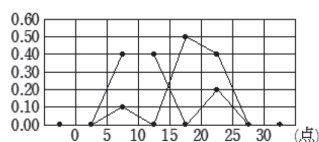
統計分野のグラフ・表を簡単に作成

データを入力するだけで6種類の統計分野のグラフ・表を作成することができます。 → **Part 1**

また、作成済みのグラフ・表から別のグラフ・表を作成することもできます。 → **Part 2**



その他のグラフ



入力したデータの再利用が可能

入力したデータを再利用することができます。 → **Part 3**

同じデータで別のグラフ・表を作成する場合、一から入力する必要はありません。

入力したデータから代表値や分散などを自動算出

入力したデータから代表値や分散、標準偏差などを自動算出します。

また、図中数式やテキストとして利用することもできます。

実際に使ってみよう

目標

収集したデータを元に色々なグラフ・表を作成してみましょう。

今回は、右のデータを元に「度数分布表」「箱ひげ図」「ヒストグラム」を作成してみよう。

教科A	9	15	17	17	18	18	20	20	22	24
教科B	8	8	9	9	12	12	13	13	21	22

▲教科 A, B 10 人分の点数

Part 1 「度数分布表」を新規作成しよう

Step1. 統計機能を開始します

メニューにある「文章」タブ内の「統計」ボタンをクリックして統計機能を開始します。

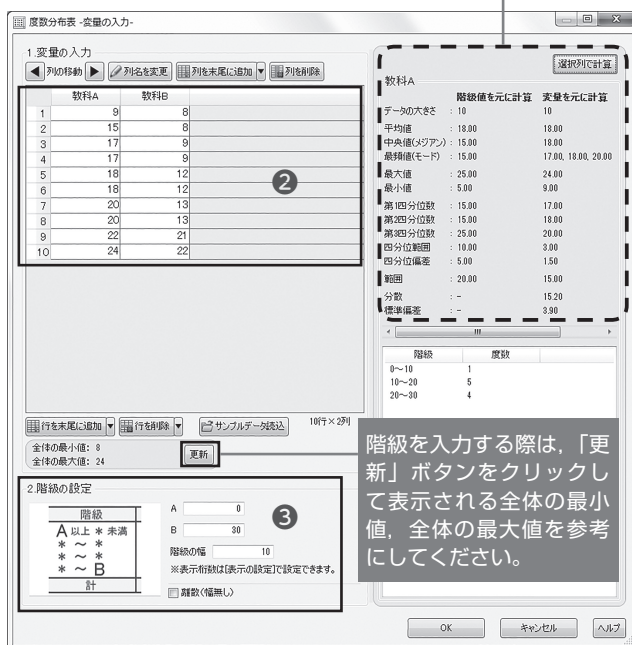
右の画面から、「度数分布表」を選びます。



Step2. データの入力・表示の設定をします



「選択列で計算」ボタンをクリックすると、平均値や中央値などの値が算出されます。



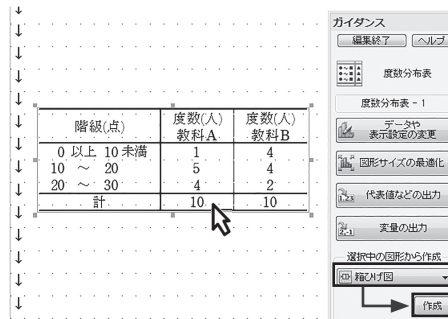
- ① 「データの入力」画面を開き、
- ② データを入力し、
- ③ 階級を設定します。
最小値（“A”）、最大値（“B”）、
“階級の幅”を設定します。
（ここでは、“A”を0、“B”を30、
“階級の幅”を10に設定）
- ④ 「表示の設定」画面で、表の度数
名や階級名、フォントや罫線の種
類など、見た目の調整を行います。
罫線の設定などは、一度作成すると、次回作成時に引き継がれます。
- ⑤ 最後に「OK」ボタンをクリックして完成です。

Part 2 「度数分布表」から「箱ひげ図」を描こう

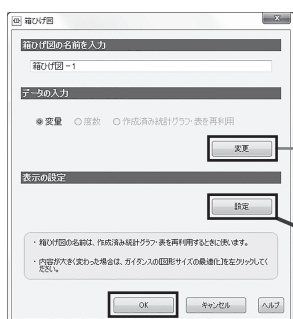
Step1. 選択中の図形から別の図形の作成を開始します

Part1 で作成した「度数分布表」を選択すると、ガイダンスが表示されます。

「選択中の図形から作成」のリストから「箱ひげ図」を選択して「作成」ボタンをクリックします。

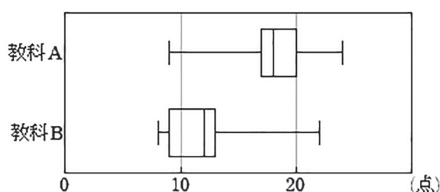


Step2. 表示の設定をします

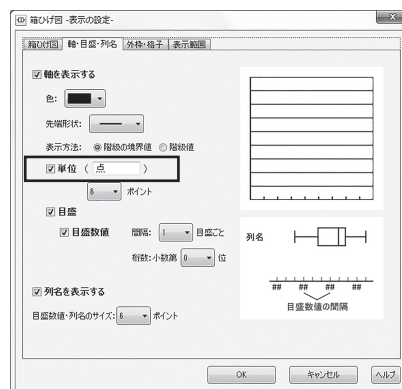


元データの箱ひげ図を作るには…

そのまま箱ひげ図を作成すると、度数分布表の情報をもとに作られます。元データの箱ひげ図を作る場合は、「データの入力」画面にある「階級を設定する」のチェックを外します。



▲ 完成イメージ
(箱ひげ図)



▲ 「軸・目盛・列名」タブ
・単位に「点」と入力

Part 3 入力済みデータを再利用して「ヒストグラム」を描こう

作成済みのグラフ・表のデータは、別のグラフ・表の作成時に再利用できます。同じデータを使って、別のグラフ・表を作成したい場合に有効です。

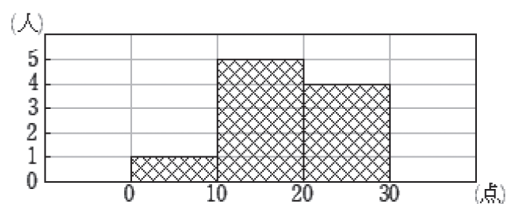
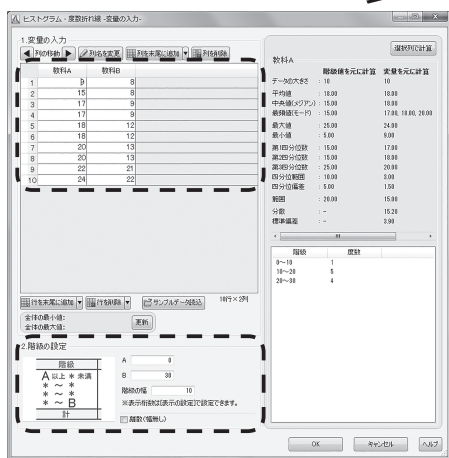
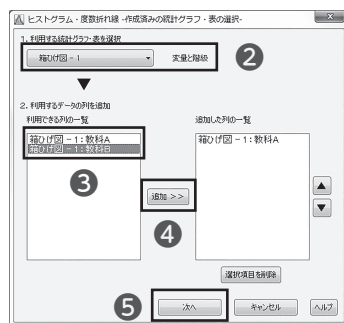
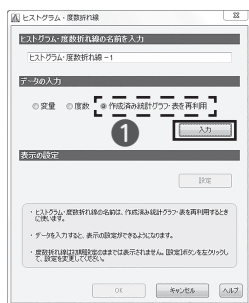
Step1. 統計機能を開始します

メニューにある「文章」タブ内の「統計」ボタンをクリックして統計機能を開始します。

右の画面から「ヒストグラム 度数折れ線」を選びます。



Step2. データを再利用します



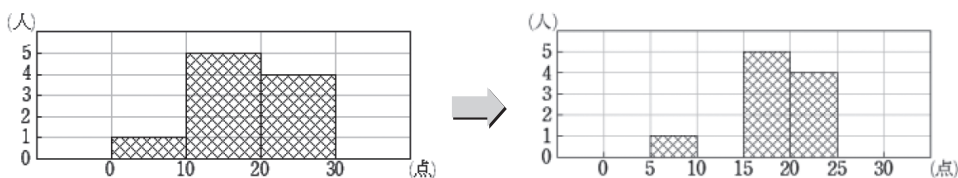
▲ 完成イメージ (ヒストグラム)

「箱ひげ図」と同じデータがすでに入力されています。表示の設定を行って完成です。

Point

作成済みのグラフ・表は簡単に調整できます

統計的に問題を解決する場面では、集めたデータを色々な形で表し、比較・吟味します。Studyaid D.B. では、一度作成したグラフ・表を、別の条件ですぐに作り直すことができるので、たとえば下の図のように、授業の一環でヒストグラムの階級の幅を変えて見せるなど、デジタルの強みを活かすことができます。



階級の幅を 10 から 5 に変更して再作成